



吉田太一 キーバース有限会社代表取締役

「遺品はゴミではなく、その人の人生のすべて」と語り、02年に世界初の遺品整理会社を誕生させた。社名はキーボード=形見をもじったものだという。

吉田太一
キーバース有限会社代表取締役
「遺品はゴミではなく、その人の人生のすべて」と語り、02年に世界初の遺品整理会社を誕生させた。社名はキーボード=形見をもじったものだといふ。

それが実現したら、コレクターには嬉しい話ではないだろうか?

たとえば韓国には、15年で30円程度のレンタルケーキ形式でお骨と遺品を收められる納骨堂があるんです。お寺に納骨と収集品の展示ができるスペースを作り、生前からそこを確保しておいて、死んだらそこに収集物と共に納骨され、家族以外の同好の士も観る事ができるミュージアム的な場所、供養として貰えるという場所を提供するんです。骨壺をオタク仕様のものにすることもできるかも知れない。そんなオタクの聖地としての納骨堂が日本にもあつていいんじゃないかなと思います。まあ、20代に来られても困るので、45歳以上とか年齢制限をして…。人形にも成形を行います。遺族がうちに連絡してこないまま片付けても、違約金なども発生しません。

吉田太一
キーバース有限会社代表取締役
「遺品はゴミではなく、その人の人生のすべて」と語り、02年に世界初の遺品整理会社を誕生させた。社名はキーボード=形見をもじったものだといふ。

最近オタクの納骨堂があつても良いのではないかと感じています

キーバースのシステムは?

遺品整理業という新事業を生み出した、「キーバース」吉田社長に

まず問い合わせがあつたら無料見積もり伺い、ご希望を聞いて金額設定をし、納得していただ

いたら作業を開始します。作業日に伺い、遺族の方に再度最終的に残すものがないか確認していただきます。作業に入つても残すものと飛ばないものの分類を行いながら、貴重品の確認を行い、廃棄するものとそうでないものを区別して箱詰めします。

廃棄業者のトラックが到着したら商品を回収してもらい、家財道具や電気品などを買取りをするものを確認し、リサイクル対象のゴミなども車に積み込みます。最後に管理会社に引き継ぎるように清掃をして終了。これが大まかな作業の流れです。

オタクといわれる人たちの死も、これからは増えしていくと予想されているようですが…。
これまでにも、何件かオタクと思われる方の物件も扱ったことがありますが、自殺者が孤独死の人が多くほとんどです。寿命や病気で亡くなる人の中のオタク率はまだ少くないです。これから増えていくところかもしれませんね。

将来はオタク向けの納骨堂もある? その将来を見越して、新たなシステム開発の必要性も視野に入れているという。

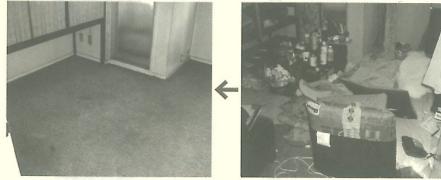
そういうコレクターの方に向けたパッケージの必要性を感じているんです。オタクの人の「コレクションを納骨堂で何十年か預かってもらうとか、インターネット上に墓地を作つて、永遠に残していくとか」「ぼちぼち自分も…」と思つ

たときに、「コレクションを預けられたお墓のよつた保管場所を作れないか」と言つてくる方もいるんですね。

たとえばお寺にコレクションの保管場所を作つて、納骨も可能にするんです。生前からそこで管理して、外部の見覧も自由にできます。たとえば施設ができないかと考えたりしています。



丁寧に仕分けされていく荷物。「キーバース」では、廃品・粗大ゴミ回収やゴミ屋敷・ゴミマンションの片付け専門の「クリーンエンジェル」も運営している。



手が届かないほど散らかっていた部屋もこのとおり! この状態に復帰してから、部屋の管理会社に引き継ぐ。